

日本子ども虐待防止学会 第22回学術集会（'16-11-25・26）において BPプログラムに関するシンポジウムが開催されます！

NPO法人こころの子育てインターねっと関西

来る11月25日（金）・26日（土）に、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催される「日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）第22回学術集会おおさか大会（<https://v3.apollon.nta.co.jp/jaspcan2016/>）」において、NPO法人こころの子育てインターねっと関西が企画しましたシンポジウムが、公募シンポジウムとして採択されました。ぜひ、ご参加ください。お申込みは、直接学会ホームページよりお願いします。

テーマ：新たな子ども虐待発生予防プログラムの実践

－ BPプログラムの概要と全国各地の取組み －

場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

日時：11月25日（金）14：10～15：50

発表者 小野寺典子 茨城県取手市保健センター 保健師

土居 和子 東広島市 臨床心理士・社会福祉士（前：虐待対応相談員、現：SSW）

山下 裕美 社会福祉法人 大阪水上隣保館 ファミリーポートひらかた 統括責任者

柳本 恭子 新潟市 やぎもと小児科 保健師

原田 正文 大阪人間科学大学副学長、NPO法人こころの子育てインターねっと関西代表

コーディネーター

山野 則子 大阪府立大学教授、NPO法人こころの子育てインターねっと関西副代表

シンポジウム概要

「親子の絆づくりプログラム “赤ちゃんがきた！”」（愛称：BPプログラム）は、NPO法人こころの子育てインターねっと関西（URL：<http://www.kosodatekki.com/>）が2010年に開発した日本生まれの親支援プログラムであり、図1に示すように全国に急速に広がっている。

BPプログラムは、初めて育児をする母親と2～5か月の赤ちゃんが、毎週1回2時間、4週連続で一緒に参加し、子育ての仲間づくりと子育て知識の学びを通じて育児不安の軽減と子ども虐待の予防をめざす参加者中心型のプログラムである。

プログラム実施数の75%以上は自治体主催であり、初めて育児をするすべての母親にBPプログラムを届けることを目標に掲げる市町も増えつつあり、実際に対象者の7～8割がBPプログラムに参加している市町が増えている。また医療機関での実施も広がりつつあるが、自治体や医療機関がBPプログラムを実施する意義は、支援を必要とする親はもちろん、すべての母親にBPプログラムを届けることができる可能性があるという点である。本シンポジウムでは、BPプログラムの概要と全国各地の取組みを紹介し、子ども虐待発生予防におけるBPプログラムの効果と可能性を実践から明らかにしたい。

プログラム実施数の75%以上は自治体主催であり、初めて育児をするすべての母親にBPプログラムを届けることを目標に掲げる市町も増えつつあり、実際に対象者の7～8割がBPプログラムに参加している市町が増えている。また医療機関での実施も広がりつつあるが、自治体や医療機関がBPプログラムを実施する意義は、支援を必要とする親はもちろん、すべての母親にBPプログラムを届けることができる可能性があるという点である。本シンポジウムでは、BPプログラムの概要と全国各地の取組みを紹介し、子ども虐待発生予防におけるBPプログラムの効果と可能性を実践から明らかにしたい。

